



第71回 日本伝統工芸展入選作品

截金硝子器「翔びたつ銀杏」

サイズ：高さ 8.2× 幅 29.8× 奥行 27.8 (cm)
技法：截金、キャスト、融着、スランプ、研磨

金色のちひさき鳥のかたちして 銀杏ちるなり夕日の岡に

与謝野晶子の有名な歌です。私は子供の頃、この歌を聞いて、「散る」「夕日」という言葉が「死」を連想させ、悲しかったので、下の句を「銀杏翔びたつ朝（あした）に向かい」と勝手に下手に変えて歌っておりました。（晶子様、ごめんなさい）ある風の強い日、銀杏の葉が散るのではなく、鳥となって自らの意思で親木から翔びたつように見えたのです。

この作品はそんな子供の頃のイメージから着想を得ました。「銀杏」と「鳥が羽ばたいている様子」を掛け合わせた形を目指しました。銀杏のような、鳥のような…。庭に銀杏の木を植えて、3年育てて観察し続け、この形を得ることができました。

黄色と緑のガラスの切り替えのグラデーションには殊に気を配りました。有機的な形のため、全面手作業による研削、研磨となり、非常に困難な加工でしたが、イメージ通りに仕上げることができました。ご高覧いただけますと幸いです。